

令和4年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校では、スクールポリシーを実現すべく、現状と課題を教職員間で共有し、「進路指導方針の理念の共有」と「魚津高校らしい指導の継承」を学校運営の重点としてその改善に取り組んでいる。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止を講じながら、学校の教育活動に支障をきたさぬよう工夫しながら学校運営を進めてきた。

学習活動では、生徒が主体的・対話的な活動を通じて学習内容をより深く理解する「アクティブ・ラーニング」の充実を目指し、ICT ツールとリアルな指導を併用することでより効果的な学習活動を推進した。感染拡大における対策として、G Suite for Education を活用した遠隔授業や課題配布、さらにオンライン面接等のきめ細かな学習指導を実施し、生徒の学習機会を確保した。進路支援では、感染症拡大の影響により昨年度に引き続き2年次の「生徒希望選択研修」は県内大学研修として実施した。1年次の「キャリアデザイン講座」では、生徒が探究活動の基本について学び、生徒の進路意識の高揚が図られた。学校評議員からは、探究活動を通じてキャリア教育を進め、生徒がより具体的な進路目標を設定して自己実現に結びつけられるよう、魚津高校の特色を生かした取り組みを継続して欲しいとの意見があった。

学校生活では、18歳成人に向けて、学校生活における意識の向上をはかるため、生活委員会の活動、HRや学年集会、保護者会等を通じて生徒一人ひとりの責任ある行動、自覚を高める意識を育む機会を設けた。特別活動では、感染症拡大防止を図りつつ生徒の自主的な活動の機会を確保するため、生徒と教職員、保護者の共通理解を得ながら、学校行事実施や安全な部活動運営の確保に努めた。また、図書委員会における図書館利用の促進活動、保健委員会による生徒の健康や学習環境の美化と感染症予防に対する生徒の主体的な取り組みによって意識の高揚が見られた。

学校評議員からは、総合的に見て、感染症拡大防止対策を講じながら、教職員と生徒が一体となった計画的な教育活動が有効に行われていることから、さらに魚津高校らしい充実した取り組みを継続して欲しいとの評価を得た。

7 次年度へ向けての課題と方策

本校では、全教職員が学校の現状に対する共通認識を持ち、改善に向けた着実な取り組みを継続しており、新学習指導要領導入2年目に向けて、学習指導、進路支援、そして生徒の自主的な活動のサポート等の充実を図らなければならない。そのための方策として、①授業改善を図るための教員相互の研修の充実、②オンライン授業の対応と共にICT機器の効果的活用の推進、③きめ細かなキャリア教育の実施による生徒の高い進路意識の醸成、に引き続き邁進することが重要である。また、生徒希望選択研修や海外研修等の本校の特色ある行事を従前の内容での実施を目指すとともに、「総合的な探究の時間」に実施している「SDGs講座」や「キャリアデザイン講座」を通じて地域との積極的な連携を図り、地区の拠点校としての役割を果たす活動を通じて生徒がより高い進路目標の実現を図れるよう、これまで以上に教職員が連携して生徒をサポートすることが求められている。